

項目 3 附属図書館

(1) 観点ごとの自己点検・評価

観点 3 : 附属図書館が、教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点にかかる状況)

) 附属図書館が教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

附属図書館は本学創設以来、教員養成という本学の設置目的に沿って教育学及びその関連分野を中心とした学術資料の収集を行い蔵書の充実に努めるとともに、施設設備についても利用者が学習・利用しやすい環境を順次整備してきた。

特に平成12年度に策定した「図書館資料整備計画」において、学習図書館機能、研究図書館機能の強化、電子図書館的機能の整備充実を図ることになり、シラバス掲載図書の網羅的収集、学生用図書の重点的収集、学部生・院生向けのコア・ジャーナルの収集、基本学術研究図書の整備、電子ジャーナルのアクセス可能タイトル数の拡大等を実施してきた。また、地域連携として平成13年度から上越市内の学校教職員に対する図書の貸出を実施し、平成16年度には市内の在住・在勤者に対して図書の貸出を開始した。

施設設備については、電子的な学術情報へのアクセスを確保するため平成9年度からマルチメディア・コーナーを設置し利用者用のコンピュータ端末の整備充実を行うとともに、視聴覚資料閲覧のためのAVコーナーを設置した。利用者の利便性については、平成9年度に自動入退館システム、自動貸出システムを導入し、サービスの向上を実現している。

(分析結果)

優れている。

(根拠理由)

資料の収集状況の目安となる学生一人当たりの年間受入冊数は7.7冊、学生一人当たりの資料購入費は約47,000円であり、教員養成系大学の中でトップクラスとなっている。利用状況についても学生一人当たりの年間貸出数は34.6冊と国立大学の中で1位となっており、優れた学習図書館機能を実現している。電子ジャーナルのアクセス可能タイトル数も4,000を超え、国立大学のアクセス可能タイトル数の平均を超えており、単科の人文科学系大学としてトップクラスのレベルにある。

図書館に設置してある利用者用コンピュータ端末は、1台あたりの学生数は約53人であり全国的に見ても電子情報へのアクセス環境は整備されており、閲覧座席数も学生数の15パーセント以上を確保し学習環境についても高水準を維持している。

(2) 優れた点及び今後の検討課題

(優れた点)

学生一人あたりの年間貸出冊数が国立大学中で1位であり、資料の収集、蔵書構成、サービスが利用者のニーズに合致していることを示している。

(今後の検討課題)

電子ジャーナルをはじめとする電子的な学術情報を安定的に供給するために、これらの購入経費を全学的な共通経費でまかなう方策を検討する必要がある。また、学生に対する情報リテラシー教育を共通科目の中で実現していくことや本学の情報発信機能を高めるための方策について検討する必要がある。

根拠データ

[1] 学生1人あたり年間貸出冊数

教員養成系大学 (学生1人あたり)

国立大学

順位	大学名	貸出数	受入数	購入費	蔵書	回転率	職員	順位	大学名	冊数
1	上越教育大	34.6	7.7	47,236	221	0.174	141	1	上越教育大	34.6
2	鳴門教育大	24.9	12.1	49,568	278	0.107	95	2	鳴門教育大	24.9
3	兵庫教育大	24.2	5.5	43,042	227	0.126	137	3	兵庫教育大	24.2
4	愛知教育大	13.1	2.1	17,452	164	0.087	323	4	一橋大	19.4
5	大阪教育大	12.9	3.2	23,238	147	0.097	386	5	筑波大	17.5
6	北海道教育大	12.6	2.5	16,165	181	0.089	217	6	九州芸工大	15.4
7	宮城教育大	11.6	2.0	25,450	176	0.069	258	7	帯広畜産大	15.2
8	東京学芸大	11.0	1.8	22,640	152	0.077	338	8	香川医大	15.0
9	奈良教育大	9.7	5.6	23,354	210	0.053	239	9	島根医大	14.2
10	福岡教育大	9.2	2.4	19,417	153	0.066	364	10	京都大	13.8
11	京都教育大	7.6	2.5	19,173	141	0.063	298			

(参考)

大学名	冊数	大学名	冊数	大学名	冊数	大学名	冊数
北海道大	(13.5)	東京学芸大	11.0	愛知教育大	13.1	山口大	9.1
北海道教育大	12.6	東京農工大	12.4	名古屋工大	6.7	徳島大	8.2
室蘭工大	7.4	東京芸大	(5.9)	豊橋技科大	11.9	鳴門教育大	24.9
小樽商大	7.9	東京工業大	11.4	三重大	(6.8)	香川大	5.1
帯広畜産大	15.2	東京商船大	6.4	滋賀大	7.0	香川医大	15.0
旭川医大	9.3	お茶の水女子	(10.3)	滋賀医大	12.4	愛媛大	8.0
北見工大	8.5	電気通信大	7.5	京都大	(13.8)	高知大	(6.2)
弘前大	7.1	一橋大	19.4	京都教育大	7.6	福岡教育大	9.2
岩手大	6.5	横浜国大	4.6	京都工芸繊維	10.5	九州大	8.0
東北大	9.4	新潟大	7.7	大阪大	11.1	九州芸工大	15.4
宮城教育大	11.6	長岡技科大	9.3	大阪外語大		九州工業大	6.5
秋田大	8.5	上越教育大	34.6	大阪教育大	12.9	佐賀大	3.8
山形大	5.3	富山大	5.0	神戸大	12.4	佐賀医大	10.4
福島大	9.5	富山医薬大	10.0	神戸商船大	10.3	長崎大	6.0
茨城大	8.6	金沢大	7.8	兵庫教育大	24.2	熊本大	6.4
筑波大	17.5	福井大	5.3	奈良教育大	9.7	大分大	8.6
宇都宮大	8.6	福井医大	(9.2)	奈良女子大	9.9	大分医大	9.0
群馬大	7.9	山梨大	6.0	和歌山大	5.7	宮崎大	7.4
埼玉大	3.9	信州大	5.8	鳥取大	7.1	宮崎医大	11.7
千葉大	(8.9)	岐阜大	6.9	島根大	8.8	鹿児島大	5.4
東京大	(10.5)	静岡大	7.1	島根医大	14.2	鹿児島体育大	5.3
東京医歯大	3.1	浜松医大	6.8	岡山山	7.5	琉球大	10.0
東京外語大	10.7	名古屋大	(10.2)	広島大	10.7		

* 『日本の図書館 2003』による。()は同書2002版による。

[2] 附属図書館関係統計数字

1 . 電子ジャーナル

・ Elsevier Science(Science Direct)	973
・ Kluwer(Kluwer Online)	625
・ EBSCOhost(Academic Search Elite)	2,028
・ NACSIS-ELS	385
・ その他	12
計	4,023

(国立大学全体の平均タイトル : 3,505 単科大学の平均タイトル : 2,367)

2 . 施設設備

- ・ 座席数 176 (平成 15 年度学生数 1,134 , 学生数に対する座席数は 15.5%)
- ・ マルチメディアコーナー設置端末数 23

(国立大学の平均座席数は 10.7%)

[3] 上越教育大学附属図書館規則（抄）

上越教育大学附属図書館規則（抄）

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人上越教育大学学則（平成16年学則第1号）第7条第2項の規定に基づき、上越教育大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 附属図書館は、教育及び研究の活動に資するため、図書、雑誌その他の資料を一元的に収集し、整理し、及び保存して、上越教育大学の役員、職員及び学生の利用に供することを目的とする。

（管理運営）

第3条 附属図書館は、附属図書館長（以下「館長」という。）が管理運営する。

（運営委員会）

第4条 館長の諮問に応じ附属図書館の運営に関する重要事項を審議するため、附属図書館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営等に関し必要な事項は、別に定める。

（細則）

第5条 この規則に定めるもののほか、附属図書館に関し必要な事項は、館長が別に定める。